

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 536

事務事業名	子どもと本をつなぐ読書推進事業
-------	-----------------

作成日	平成 28 年 9 月 21 日		
部局名	教育委員会		
課名	社会教育課・図書館		
課長名	鈴木 章子	内線	52-2457
担当者名	古川 千尋	内線	52-2457

基本目標		人を育むまち
政策	010305	文化の振興と生涯学習の充実
施策		図書館の充実と整備
関連施策		

会計	一般会計		
款	10	教育費	
項	5	社会教育費	
目	3	図書館費	
事業コード	040000		

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	市内の子ども、大人		
誰(何)に対して事業を行うか			
意図	子どもが本の楽しさやおもしろさを知ること、読書習慣を身につけることを目指す。また、講座・講演会を開催し、読書の大切さを大人に理解してもらい、子どもの読書活動の推進に参加してもらえるように努める。		
対象をどのような状態にしたいか			
事業概要	子どもたちに本の楽しさやおもしろさを伝えるために、図書館職員や図書ボランティアによる出張おはなし会を開催する。また、おはなし会等の機会を増やしていくために、図書ボランティアを育成する講座を開催し、おはなし会で活用するための大型絵本等の備品を整備する。さらに、読書の大切さを広く一般に啓蒙するため読書推進講演会を開催する。		
意図を達成するために実施することは何か			
事業期間	平成 26 年度 ~ 平成 28 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等			
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 図書館の子ども(0~12歳)の新規登録者数	計画値		640	670	700	
		実績値	人		724	731	
		達成度	%		113.1%	109.1%	
活動指標	② 地域における図書ボランティアの人数	計画値		80	90	100	
		実績値	人		107	114	
		達成度	%		133.8%	126.7%	
成果指標	① 図書館の児童図書(児童書・紙芝居)の貸出冊数(個人)	計画値		140	145	150	
		実績値	千冊		147	147	
		達成度	%		105.0%	101.4%	
	② 図書ボランティアの活動回数	計画値		104	112	120	
		実績値	回		218	194	
		達成度	%		209.6%	173.2%	

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	0	1,625	1,025	1,025	315	315	0	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源		1,625	1,025	1,025	315	315		
② 人件費(千円)	0	8,870	9,844	11,888	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)		0.95	1.20	1.45	講演会・講座・読み聞かせイベント・出張おはなし会の開催	講演会・講座・読み聞かせイベント・出張おはなし会の開催		
時間外勤務(時間)		198	135	117				
嘱託等人数(人)		0.70	0.60	0.60				
フルコスト(①+②千円)	0	10,495	10,869	12,913				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	昨年度は9月・10月に図書ボランティア養成講座とスキルアップ研修会を、2月に読書推進講演会を開催した。今年度は10月にビブリオバトル、11月に読書推進講演会、来年2月に図書ボランティア研修会を開催予定。出張おはなし会の依頼については順調に増加している。大型絵本等の備品も計画通り整備が進んでいる。
事業が抱える問題・課題等	昨年度よりも出張おはなし会の依頼が増加しており、職員だけでは対応できない場合に協力してもらえる図書ボランティアの人材確保が必要である。読書活動や図書館利用の促進につなげるために、絵本読み聞かせイベントや絵本作家の講演会を開催していく必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	大村市の子どもの読書活動の推進のためには、子どもが本の楽しさやおもしろを知る機会を増やしていくことや、図書ボランティアを育成し活動することが必要である。						
	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
有効性	図書館職員と図書ボランティアとが協働して出張おはなし会等を行うため、ボランティアの人材育成や備品の整備については、市が主体的に行う必要がある。						
	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	子どもたちに本の楽しさ・おもしろさを伝える機会が増えることで、読書習慣が身につく、読書をする子どもが増える。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	子どもの時からの読書習慣により、生涯にわたり読書により学んでいく力を養うことができる。また、その子どもが成長し親となったときも、自身の子どもの同じような体験をさせようとするサイクルが生まれることで、読書による生涯学習の継続的なサイクルが生まれることにつながる。						
	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
経費は最小限にとどめているが、事業の実施により効率的な執行に努める。							
【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし		

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性
 その他の見直し

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	大型絵本等の備品整備は今年度までで整備できるが、読書推進講演会や出張おはなし会、読み聞かせイベントは継続していきたい。また、ボランティア養成講座は司書を講師として、できるだけ経費をかけずに取り組みたい。そのため、事業期間を平成28年度までとしていたが、平成30年度までに延長したい。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	子どもたちの読書活動の推進が図られる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象	今後の方向性	終了
	終期設定				終期設定		
	意見等				内容	本事業は、当初の予定どおり平成28年度をもって終了する。ただし、提案内容については、予算の範囲内で実施すること。また、子どもたちに本の楽しさ等を伝えることは大切なので、今後新たな事業を検討すること。	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。